

「今後の青少年事業のあり方」に関する検討結果について

令和2年度
狛江市青少年問題協議会小委員会
検討報告

[検討事項] 今後の青少年事業の考え方について

[検討経過]

	日時	趣旨	議論概要
第1回	7月2日(木) <u>資料)P.3-5</u>	目線合わせ イメージ共有 課題整理	主な青少年関係事業の全体像を共有し、これまでの各々の活動の中で課題と感ずることを元に議論。
第2回	8月20日(木) <u>資料)P.6-13</u>	課題整理 今後の方向性	第1回で議論いただいた内容を整理し、各事業の課題や青少年事業全体としての今後の方向性を議論。
第3回	9月30日(水) <u>資料)P.14-17</u>	今後の方向性 最終報告(案)の検討	第2回で議論いただいた内容を整理し、青少年事業全体の「テーマ」や全体像について議論。 (最終の文案は委員長及び副委員長に一任)
(最終調整)	10月14日(水) <u>資料)P.17</u>	最終報告(案)の文案の調整	第3回で出た意見を踏まえ、小委員会委員長及び副委員長にて修正。

主な青少年関係事業一覧 「1. 広報・啓発関係」

実施主体	事業名	分類	概要	実施時期イメージ													
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
1	青少年協だより	広報	<ul style="list-style-type: none"> 青少年の健全育成、青少年への支援の広報手段として実施。 両面2ページ。年2回各30,000部発行、新聞折込み等による。 				■									■	
2	青少年問題協議会	健全育成啓発用三角塔の維持管理	<ul style="list-style-type: none"> 健全育成にむけた標語を市内5か所に設置。 定期的に巡回点検し維持管理する。 														
3		健全育成看板の維持管理	<ul style="list-style-type: none"> 薬物の乱用等の防止・啓発のため、市内3か所に設置。 定期的に巡回点検し維持管理する。 														
4	青少年委員の会議（市委託事業）	青少年委員だより	<ul style="list-style-type: none"> 青少年活動推進事業のより一層の啓発のためを目的に青少年委員の活動等を掲載しただよりを年2回発行。 				■										■



主な青少年関係事業一覧 「2. 青少年向けイベント関係」

実施主体	事業名	分類	概要	対象世代				実施時期イメージ												
				小	中	高	大	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
青少年問題協議会	すくすくコンサート	発表の場	<ul style="list-style-type: none"> 市内の小・中・高校生に発表と交流の場を提供するためのコンサート。 実行委員会による実施。エコルマホールで年1回開催。 学校と調整し、出演者は学校から選出。 	■	■	■														
	青少年会議	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの意見表明や権利擁護等を目的に実施。 市内の中学生が同年代の中学生やサポーターと関わりながら地域課題について議論し、その成果を市に対して発表する。 学校と調整し、参加者は学校から選出。 		■															
青少年委員の会議 (市委託事業)	中高生フェスティバル	発表の場	<ul style="list-style-type: none"> 「中高生の中高生のための文化祭」がコンセプト。 市内の中高生に発表の場を提供する文化祭 実行委員会による実施。エコルマホールで年1回開催。 		■	■														
	成人式	式典	<ul style="list-style-type: none"> 満20歳を迎えた成年を祝う。 実行委員会により実施。R3.1.11に開催予定。 				■													
市	子ども議会	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの意見や要望を市のまちづくりに反映させていくとともに、議会や行政の仕組み・役割を学び、社会の一員としての自覚を培うことを目的として実施。 小学5・6年生を対象として市議会議場にて実施。 学校と調整し、参加者は学校から選出。 	■																

□…実行委員会や準備のための会議等

前回の会議での意見/課題 1

青少年会議

- ・保護者や学校に周知されていないこともあり、せっかくの発表が内輪のものになっていると思うので、改善の余地があると思う。
- ・参加する生徒や学校を盛り上げて、良いものにしていく努力が必要だと思う。
- ・学校によって温度差がある。学校に応援してもらえるようにこちらからの働きかけや、授業の内容に絡めた内容にすれば学校としても協力してくれるのではないか。
- ・権利擁護がテーマだが、社会で自分に何が出来るのかを考える場にしたい。学校から決められて参加するのではなく、自ら進んで参加するようにするなど、主体性を持たせられる行事にするべきである。青少年会議と子ども議会を隔年で開催しているようだが、一つの案として、子ども議会を毎年開催という形に変更しても良いと思う。
- ・市内の他校の生徒との交流が出来ていてそれだけでも意味があると思う。

すくコン

- ・子ども達にとっては、連合音楽会と同じものを同じ場所でやるということで、あまりエコルマホールで演奏することもメリットにはならないと思う。一緒に演奏したということのみでは交流はそこまで深まらないのではないか。
- ・毎年、授業数も足りない中で、日曜日にまで生徒をすくすくコンサートに出すことに対して、厳しさを感じている。生徒にアンケートを取って意見を聞いてみるといいと思う。
- ・中学校の吹奏楽の指導の先生からは、3年生が抜けた後の1・2年生の目標になって有意義だとの声がある。
- ・アンケートから、狛江の子どもたちの演奏が聞いて良かったという声があった。小菅村の太鼓の演奏は良い経験になっていると聞いている。
- ・学校としては、楽器の搬入が大変だと思うので、合唱であれば負担が減ると思う。

前回の会議での意見/課題 2

全体について

- ・青少年への取組は様々な団体で行っており、子どもが大人になる過程で様々な団体が支援に関わってくると思うが、それぞれの団体の横のつながりが薄いと感じている。本青少年問題協議会は、様々な団体から選出されているため、横のつながりの構築ができると良いと思う。
- ・青少年会議やすくすくコンサート等の事業は、実施している意義はあるが、参加者の負担感や学校への周知・情報共有不足等もあり、うまくその意義が広がっていないところもある。



第2回小委員会での検討の方向性

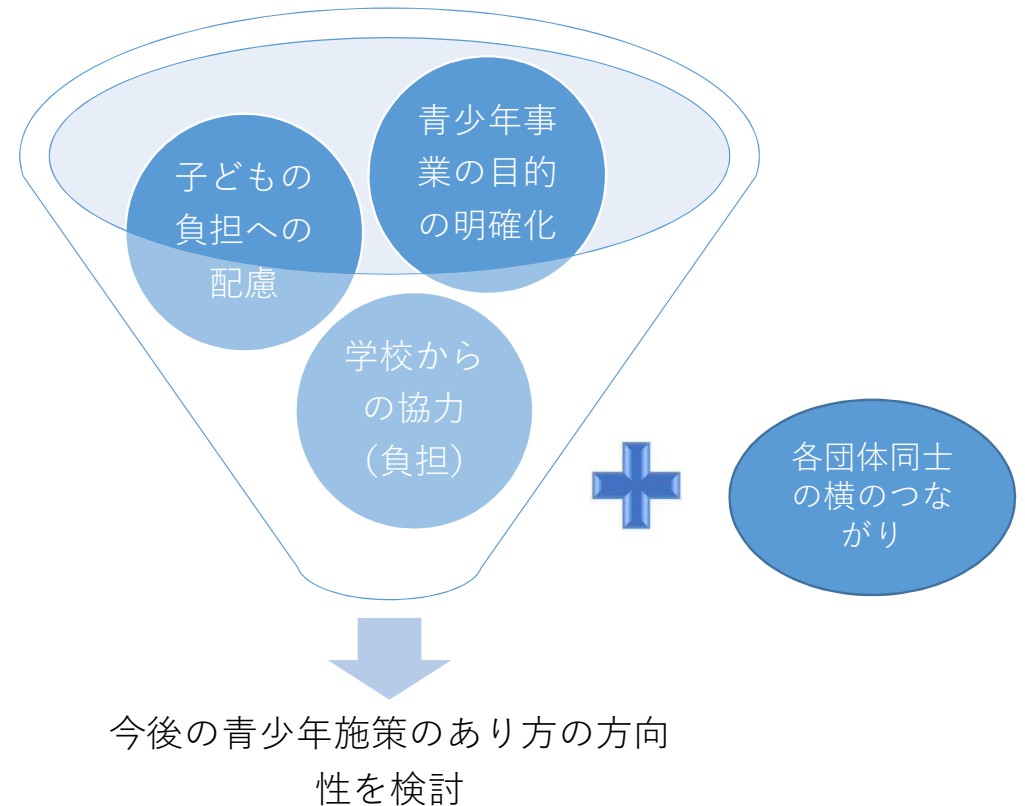
- ・第1回小委員会で示した様々な事業を、その目的や対象、寄せられた課題毎などで整理し、青少年事業全体としてのあり方について引き続き検討していく。

現状把握：3つの課題

今後の青少年施策のあり方の方向性を検討
するに当たって留意すべき事項

課題

- ① 子どもの負担への配慮
 - ② 青少年事業の目的の明確化
 - ③ 学校からの協力（負担）
- + 各団体同士の横のつながり



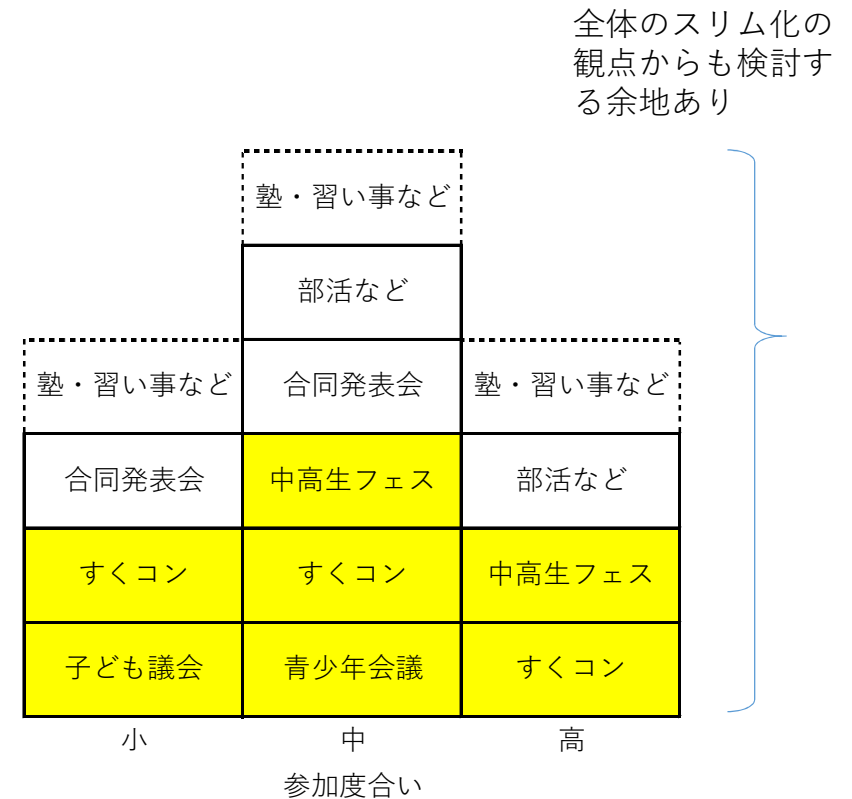
現状把握：①参加度合い

実施主体	事業名	分類	概要	対象世代			
				小	中	高	大
5	青少年問題協議会 すくすくコンサート	発表の場	・市内の小・中・高校生に発表と交流の場を提供するためのコンサート。 ・実行委員会による実施。エコルマホールで年1回開催。 ・学校と調整し、出演者は学校から選出。	■	■	■	
6	青少年会議	権利擁護	・子どもの意見表明や権利擁護等を目的に実施。 ・市内の中学生が同年代の中学生やサポーターと関わりながら地域課題について議論し、その成果を市に対して発表する。 ・学校と調整し、参加者は学校から選出。		■		
7	青少年委員の会議(市委託事業) 中高生フェスティバル	発表の場	・「中高生の中高生のための文化祭」がコンセプト。 ・市内の中高生に発表の場を提供する文化祭 ・実行委員会による実施。エコルマホールで年1回開催。		■	■	
8	成人式	式典	・満20歳を迎えた成年を祝う。 ・実行委員会により実施。R3.1.11に開催予定。				■
9	市 子ども議会	権利擁護	・子どもの意見や要望を市のまちづくりに反映させていくとともに、議会や行政の仕組み・役割を学び、社会の一員としての自覚を培うことを目的として実施。 ・小学5・6年生を対象として市議会議場にて実施。 ・学校と調整し、参加者は学校から選出。	■			

第1回資料より転載

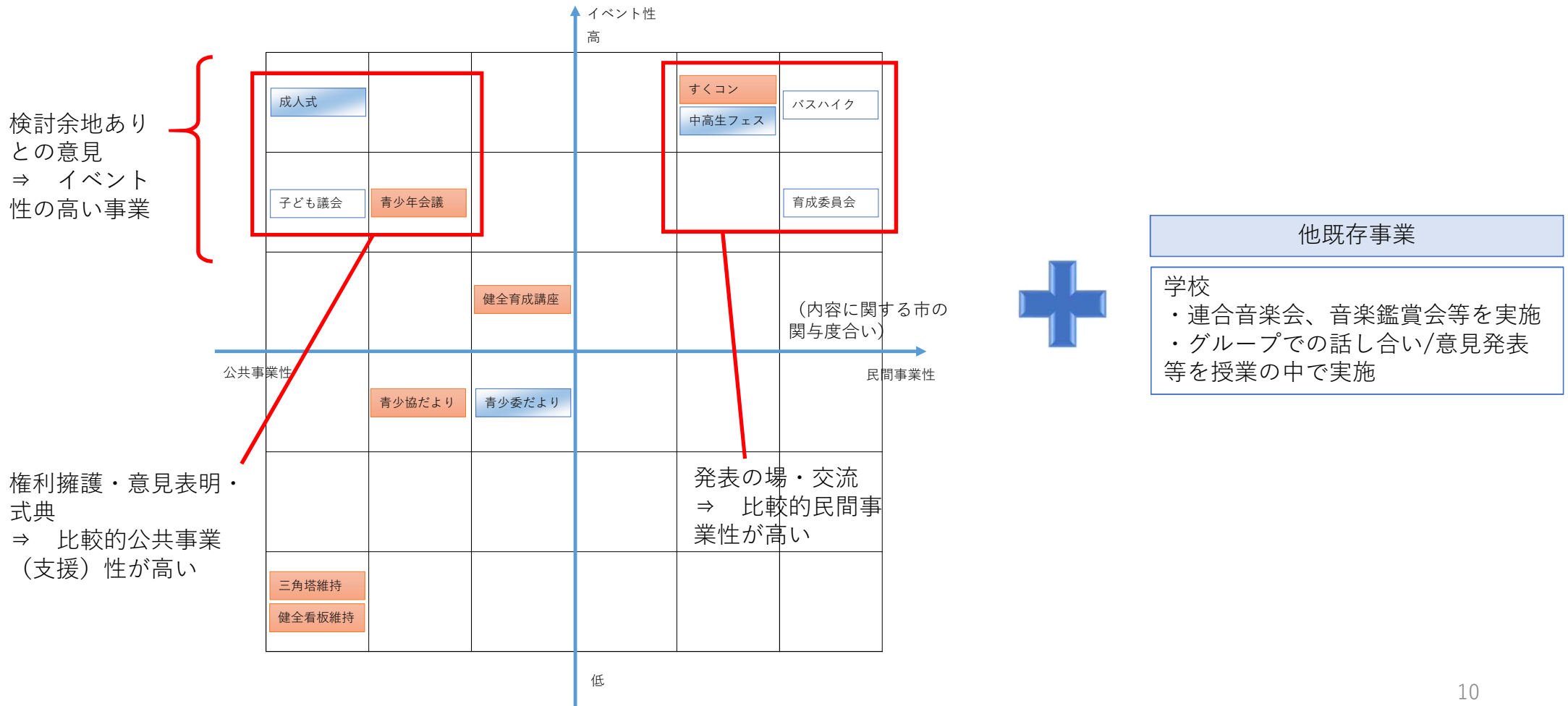


他既存事業	学校 ・ 連合音楽会、音楽鑑賞会等を実施 ・ グループでの話し合い/意見発表等を授業の中で実施
-------	--



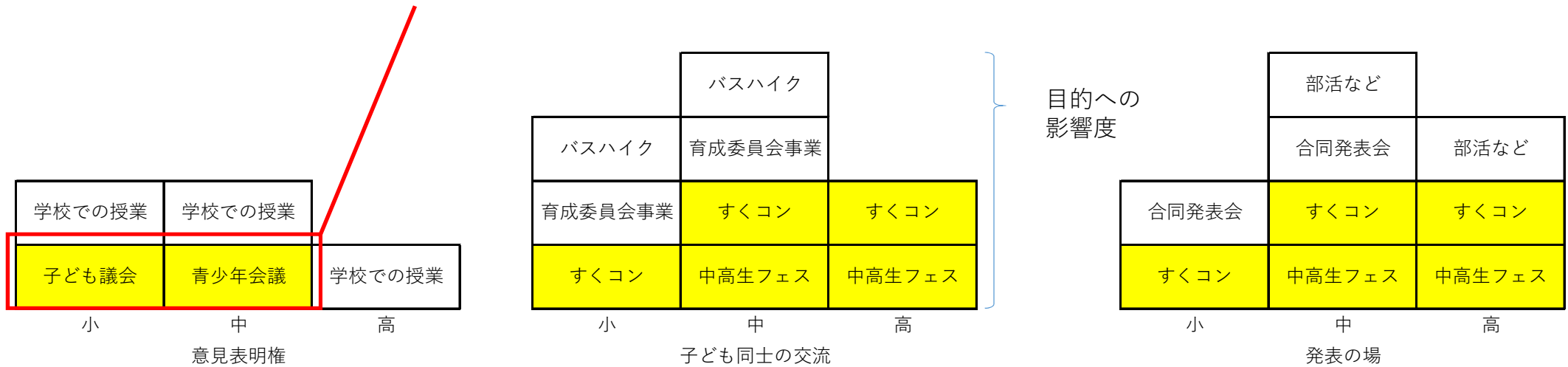
□…便宜上、一律の幅で表記

現状把握：②事業マッピング



現状把握：②対象者/目的別 影響度一覧

行政としての支援必要性の高い子どもの権利擁護に関わる事業については、引き続き十分にカバーしていく必要がある。



□…便宜上、一律の幅で表記

現状把握：（参考）若者の状況

社会背景

社会との関係の希薄化/社会的孤立の防止、居場所の確保等が求められている。
⇒第2期子ども・若者計画において「子どもや若者の居場所の確保と社会参加に向けた支援」を5年間に取り組む基本施策として位置づけ。

若者生活実態調査

若者を対象にアンケートを実施

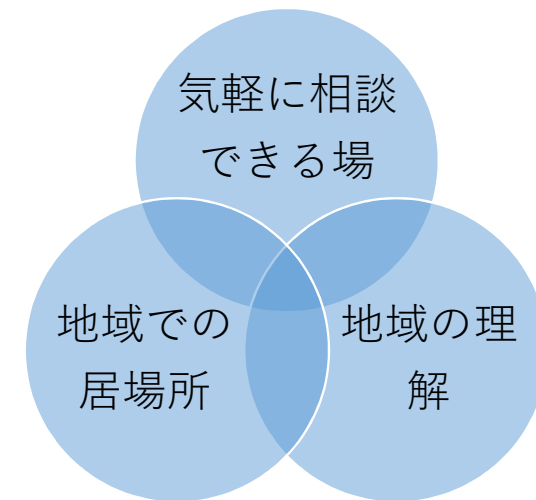
①悩みごとがある（68.8%）と回答した人が相談したいと思う相手

- ・親、友達など自分が知っている相手 53.6%
- ・カウンセラーや医師など専門性の高い相手 28.0%
- ・市の職員など身近だけど自分の知らない相手 9.7%

②「若者のために必要な市の取り組み」

- ・お金の心配をすることなく学べる（学・習い事）用に支援する 24.3%
- ・就職に向けた相談やサポート体制を充実させる 11.5%
- ・自由に過ごす場を増やす 11.2%

求められる対策



子どもの非行の防止を図る

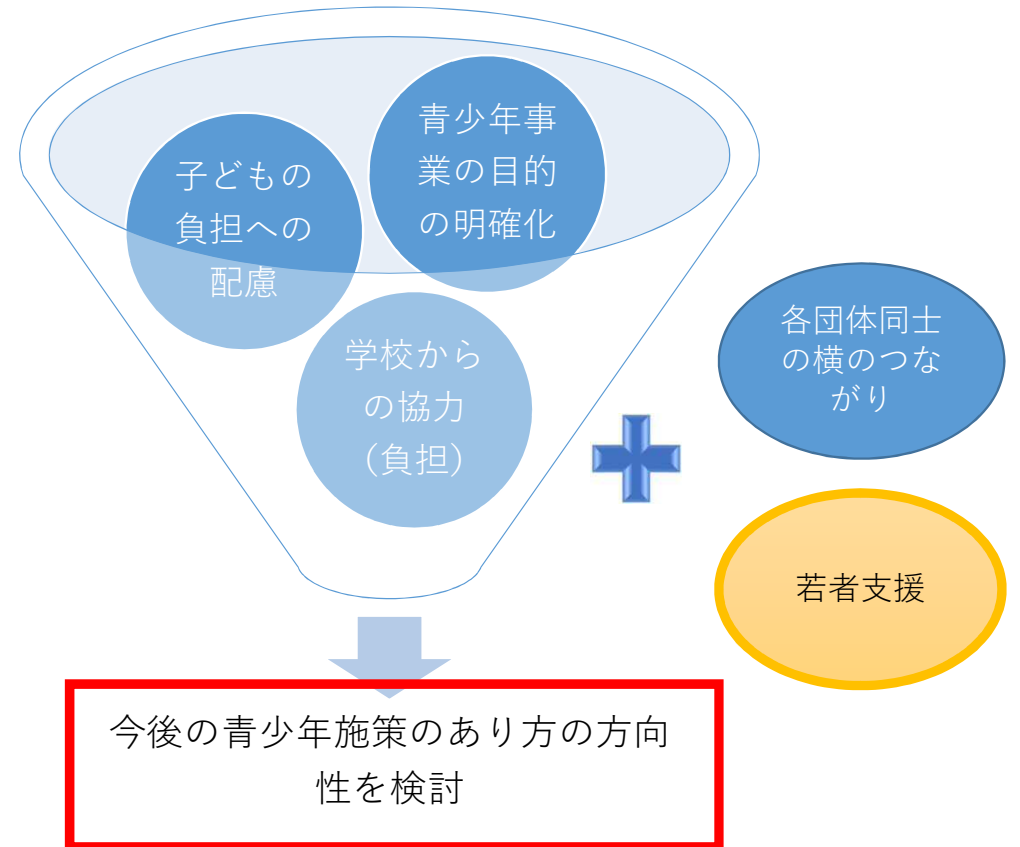
←地域で支えあっていく仕組みを検討していく必要

現状把握： 3つの課題（2）

今後の青少年施策のあり方の方向性を検討
するに当たって留意すべき事項

課題

- ① 子どもの負担への配慮
 - ② 青少年事業の目的の明確化
 - ③ 学校からの協力（負担）
- + 各団体同士の横のつながり



第2回会議での意見/課題

青少年問題協議会

- ・本来、青少年問題協議会は事業をするよりも、**何が必要なのかを協議しその事業を他の団体に割り振っていくもの**だと思う。すすくコンサートなども、青少年問題協議会小委員会で事業をするようになったが、**本来の役割を議論すべき**だと思う。
- ・青少年問題協議会は青少年の指導・育成・保護及び矯正に関して、調査・審議することを目的として設立されたものであるので、小委員会の意義も含めて話し合いが出来ればと思う。
- ・普段は事業をこなすだけであまり議論をしていないが、去年のひきこもりの勉強会では色々な発言も出て、とても面白かったのでそういう取り組みもしていくといいと思う。
- ・育成委員会は昭和54年に発足したが、当時は不良が多く、その対策をしていた。三角塔や看板等も同様であるが、今は時代も変わって目的も変わってきた。事業全体を見直していくのか、個々の事業を見直していくのかの方向性を決めた方が良くと思う。また、事業後の協議会へのフィードバックもあまりなく**目的に沿った事業ができているのか疑問があるまま続けているものもある**。
- ・せっかく色々な団体が集まっているので、お互いに協力するなどして事業をしていくことや、様々な団体と情報交換ができたり、直接話し合ったりできるのは良いと思う。

第2回会議での意見/課題

青少年会議

- ・青少年会議は、昔は狛江市の様々な課題に対し、青少年の視点から考えてもらい幅広い意見を吸い上げる場を設け、青少年自身が能力を発揮できるよう、青少年の主体的な活動を促進するという目的があったが、今は逆になっているようだ。
- ・子ども達が提案をし、会議をまとめる中で、主体性も芽生えていると思うが、自分で立候補する子が少なく、先生の推薦になってしまっている。それに関しては、違うやり方でもいいと思う。
- ・青少年会議に関しては、目的はある程度果たせているものの、**やり方については検討すべき**だという意見がある。

その他事業

- ・今回のコロナ禍の中で、親戚の大学生が何のために大学に通っているのか分からないと言っているという。小中高と何の躓きもなく成長してしまうと、主体的に考える機会がなくなる。失敗を経験することも必要。**主体性を育むことができる事業**ができれば良いと思っている。
- ・**ジュニアリーダーの育成等**の事業も面白いと思う。
- ・学校ではない、ふらっと集まれる場所を作って、そこにコミュニティが出来る。受験などで一時離れても継続して通える場所があると、その中でリーダーが育っていく。そのような活動も必要だと思う。
- ・学校では、あまり積極的でない子を、あえて中高生フェスティバルの実行委員に推薦してきたことがあるが、子ども達が自分の意見を言えるようになったり、成長が見られたり、先生方もとても喜んでいた。

(本日) 第3回会議で御議論いただきたいこと

第1回

- ・ 主な青少年関係事業一覧を共有し、課題と感じていることなどを議論



第2回

- ・ 第1回で議論いただいた課題について改めて整理し、各事業の課題や今後の方向性などを議論



第3回

- ・ 第1回、第2回でいただいた意見などを踏まえ、以下の点について議論・提案
- ・ 青少年事業全体の「テーマ設定」について (スライド17)
- ・ 青少年事業全体の「今後の流れなど」について (スライド17)

今後の青少年事業の考え方（提案）

考え方

- ・これからの青少年事業を考えるにあたり、これから大人になって社会に出て行く 狛江の子どもたちにとって、何が大切なのか、を考える。



テーマ設定

- ・子どもに伸ばしてもらいたい力は、主体性、実践力、積極性、協調性、献身性、思考力、応用力、チャレンジ精神etc…とたくさんあるが、そのなかでも「自ら考え、判断し、行動できる力（主体性）」は、特に大事になると考える。
- ・このことを前提として、主体性を持って、地域で活動できる子どもを育てることとそのための環境づくりをこれからの青少年事業のメインテーマとする。
- ・同時に、学校で活躍できなくても、地域で子どもが活躍できる場（他者からの承認、存在の肯定、居場所etc...）をつくる。※青少年事業は、子どもと接するとき“学校と違う物差し”を持っておくことが大事。子どもにとっての「居場所」の視点も必要。



事業の流れ・運用

- ・これからの青少年事業のメインテーマ「主体性を持って、地域で活動できる子どもを育てることとそのための環境づくり」を踏まえ、事業の構成を考える。さらに、この青少年事業の再構築にあたっては、複数の事業を通して一連の流れ・サイクルを持たせる。
- …例えば、『①きっかけづくり→②実践（やってみる）→③発展（中心になって行う&周りを引っ張る）』という流れを複数の事業構成の中で行う。
- ・これに加えて、メインテーマを踏まえた運用上の工夫も必要。
- …例えば、きっかけづくりでは子どものやりたいこと、楽しむという視点や、それぞれの事業では、経験が多い子ども(OB.OG)が経験の少ない子どもに教える、という機会を増やし、子ども同士の「教える⇄教わる」の関係を意図的に作りだす、など。その中で、子どもの自覚と主体性の芽生えを促しつつ、学校や学年を超えて地域で子ども同士をつなげる。